

# 南北軸の眺望景観保全を契機としたまちづくり

大澤 昭彦

高崎経済大学

aosawa@tcue.ac.jp

スライド中の写真は全て発表者が  
撮影したもの

# これからの課題

<これまで>

## ①復興期：1945年～1970年代

### 都市の骨格形成の時代

- 1954年 広島平和記念公園開園
- 1957年 広島市民球場完成（09年解体）
- 1958年 広島城完成（外観復元）
- 1965年 平和大通り開通  
広島商工会議所本所ビル完成
- 1966年 原爆ドーム保存決定
- 1978年 基町アパート完成（1969年着工）  
広島東京海上ビル完成（現おりづるタワー）

## ②景観形成期：1980年代～現在

### 骨格を際立たせる時代

- 1981年 広島市都市美計画策定
- 1996年 原爆ドーム、世界遺産登録
- 2004年 広島市の魅力ある風景づくり基本計画策定  
景観法制定
- 2006年 美観形成要綱改定（高さ基準追加）
- 2014年 広島市景観計画策定
- 2019年 「原爆ドーム及び平和記念公園周辺の眺望景観のあり方」公表

## 現在の課題

- 主要施設の老朽化  
例) 広島城、基町アパート等
- 跡地の利用  
例) 旧広島市民球場、広島商工会議所
- サッカースタジアムの建設

## 現在の課題（平和記念公園周辺に限る）

- 南北軸の眺望保全の方針は固まったが、こういった手段でどのようなルールをつくるか？
- バッファゾーンの高さ規制が要綱のまままでよいのか？

# 南北軸の背景保全エリアの再生

- 南北軸の眺望保全と、背景地のまちづくりを一体的に進める。
- 水辺を含めて歩きたくなるエリアに（現在は街区も道路も大きく、歩きたくなる環境とはいいがたい）。

## □ 老朽ストックのマネジメントや景観形成

- 広島城の維持管理・景観形成
- 基町アパートの維持管理（戦後の近代建築としての価値もある）等

## □ 中央公園、球場跡地、商工会議所跡地の利用

- サッカースタジアム建設
- Park-PFIによる魅力ある民間施設の誘導による活性化

# 広島城の景観保全

- 広島城は1958年に鉄筋コンクリート造で復元。
- 老朽化が課題（耐震問題は？全国のお天守で問題に）。
- 天守の維持管理にあわせて、城周辺の景観もどうするか？（景観計画を拡充？）



# 天守の展望台から周囲の山の眺め

- 周囲の山並みへの眺めも広島市の景観の特徴
- 山の稜線がかろうじて見える



# 濠端の眺め



# 天守の眺望景観保全の例

- 現存天守だけでなく、戦後の復元天守の景観を守る自治体が多い。

## <現存天守>

- 松本城
- 犬山城
- 彦根城
- 姫路城 (強化検討中)
- 丸亀城
- 松山城
- 高知城

## <復元天守 (RC造) >

- 小田原城
- 名古屋城
- 岡崎城
- 掛川城
- 和歌山城
- 熊本城
- 福山城 (検討中)

# 名古屋城の眺望景観保全

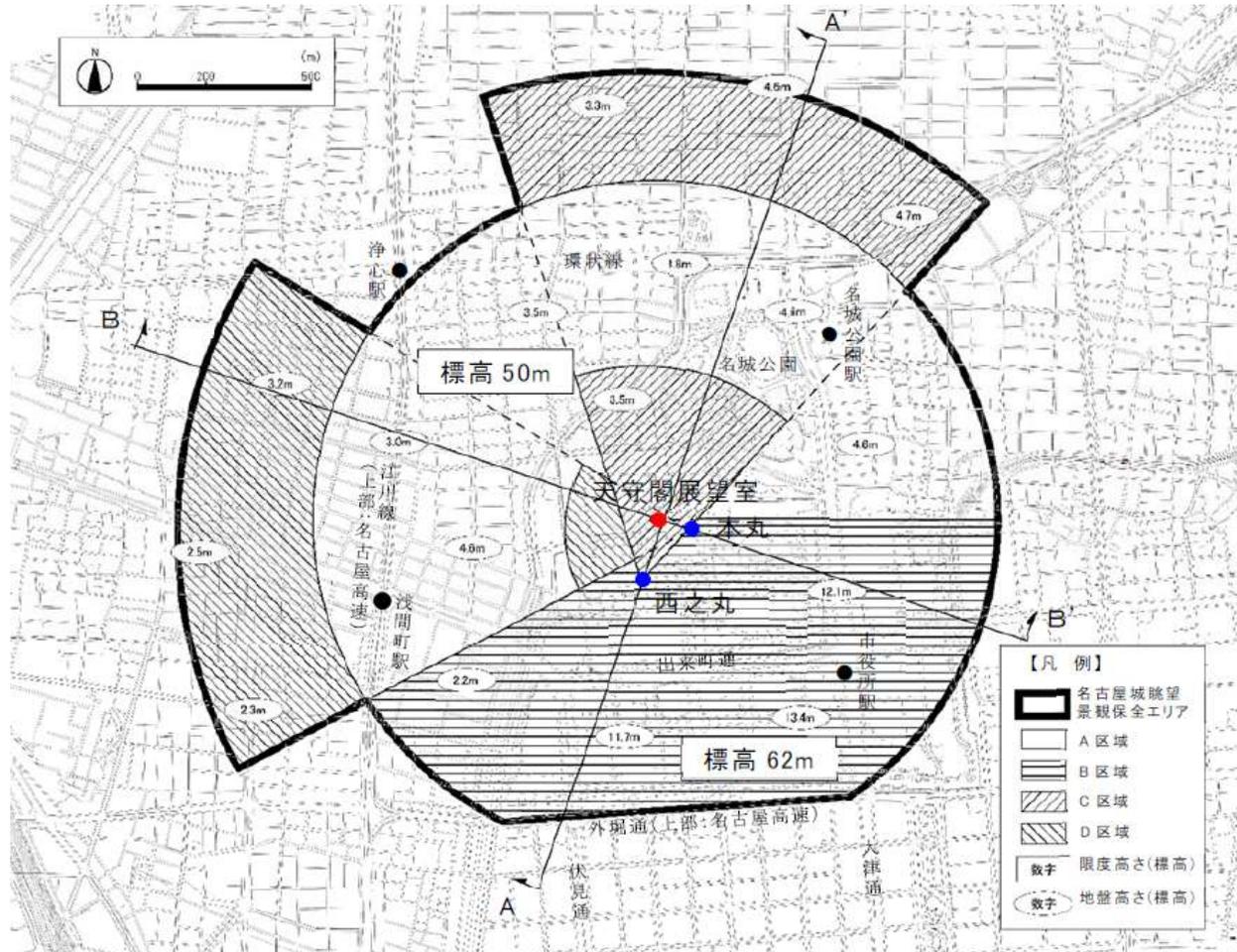
2018年10月から実施

- ①天守からの展望（パノラマ景）
- ②城内から天守への眺め（背景保全）
- ③テレビ塔から天守への眺め（見通し景）



出典：名古屋市景観計画 8

# 名古屋城周辺眺望景観保全エリア



出典：名古屋市景観計画

## おわりに

- 様々な眺望景観は、都市の骨格（都市を構成する大事なもの）を市民に意識させ、愛着を醸成する契機に。また、そのエリアのまちづくりを考えるきっかけにもなる。
- 都市は少しずつ変化するもの。しかし、都市には「変わらないもの」が必要。その象徴が都市の骨格。

# おわりに

- 原爆ドームをはじめ、平和大通り、町を取り巻く山並み、比治山、元安川等の河川など、都市の骨格・構造を視覚的に実感できるようにする取り組みはこれから重要になるのでは？



エトワールの凱旋門から眺めるとパリの都市の骨格が理解できる

平和大通りから比治山を望む

